

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	中小規模都市で若手医師の在宅医療特化型クリニック開設を支える方法 ～ゆるやかなネットワークとしてのグループ診療～
演者名	市橋 亮一 1)、吉田康太 2)
所属	1) 医療法人 かがやき 総合在宅医療クリニック 2) きたおわり在宅支援クリニック

目的 グループ診療を行う在宅医療特化型クリニックは、重症患者を多数診療することができ、同時に、働く人の燃え尽きを予防しうる仕組みである。地域医療の核となりうる存在であるが、一般的に医師が集まりやすい大規模都市でしか成立せず、中小規模都市での成立は難しい。このような「人口の壁」を突破するための方法として大規模都市からの支援のあり方を検討した。

実践内容 平成 26 年 10 月に別法人として、クリニックから 30 分離れた隣の市にグループ診療を前提とした開業支援を行った。隣接する都市への支援では開設支援・オンコール支援・人的支援・情報共有インフラの共有が可能であった。ケーススタディとしてインタビューを行った。

実践効果 一人診療所で 24 時間対応をしつつ、開業後すぐにでも当番体制での休暇をとることが可能であった。同じ仕組みを使うことで、新クリニックのスタッフ初期研修／業務マニュアルの共有を既存のクリニックで行うことが可能であった。

考察 グループ診療を維持しつつ、他地域へ支援することはオペレーション上負荷が少なかった。能力のある医師であれば自分なりの思いやり方を実践するためのある程度の自由度が必要と考えられた。既存開業医同士の強化型の仕組みは、情報共有のインフラの違い、診療方針の違いなどが懸念され、実質的な協力が難しいことがある。中小規模都市への波及する開業の形として、単独に開業しつつグループ化していく形もひとつの選択肢として有用と考えられた。開業支援というかたちの教育の仕組みも今後重要性を増していくと思われる。